

日常生活における個人線量の活用例

ー全市民で取組んだ被ばく線量測定ー

伊達市健康福祉部健康推進課

1. 伊達市紹介

(1)伊達市の人口等

- 人口63,914人 世帯数22,277世帯
(平成26年10月1日現在:住民基本台帳登録)
- 果物の里(桃、ぶどう、りんご、アンポ柿・・・)



1. 伊達市紹介

(2)伊達市の位置

- 伊達市は福島県の北部に位置し、県都福島市の北東に位置している。東に阿武隈山系の霊山、西には吾妻連峰、北方には宮城県境の山々が遠望できる福島盆地の中にある。
- 面積は265.1km²で、そのうち65%を森林と農地が占めている。
- 伊達市は、平成18年1月1日に伊達町、梁川町、保原町、霊山町、月舘町の5町が合併して発足した。

伊達市が目指すまちの姿は、

「**健幸都市**（スマートウェルネスシティ）」

心と体の「**健康**」をテーマにまちづくりを行っています。

What is 'Smart Wellness City'?

健幸都市（スマートウェルネスシティ）
とはどんなまち？

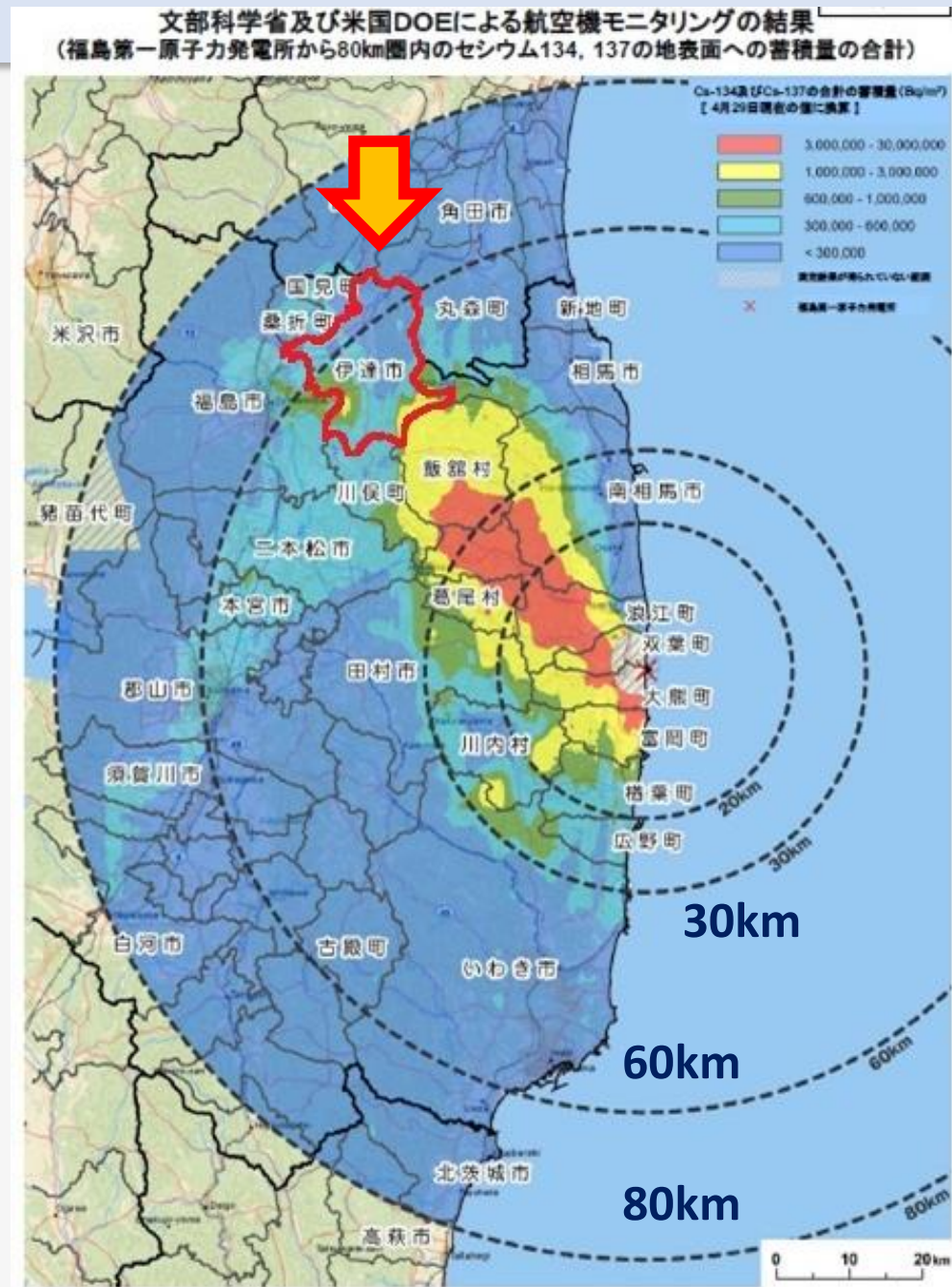
市民一人一人が予防に先行投資をし、市民の誰もが健康で幸せに暮らせるまちのこと。



2. 事故の概要

(1) 事故の影響

- 東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、放射性物質が環境中に放出された。
- 伊達市は30km圏外だが、特定避難勧奨地点※として小国地区等が指定される等、事故の影響を受けた。
- ※ 地域的な広がりが見られない一部の地域で事故発生後1年間の積算線量が20mSvを超えると推定される空間線量率が続いている地点
- 伊達市では、プロジェクト・チームを結成し、除染及び健康管理対策に取り組んでいる。



3. 除染への取り組み

(1) 除染への取り組み

迅速に除染を進める観点から、予測される放射線量により、伊達市全体をA、B、Cの3エリアに区分し、放射線量に応じた作業手法で実施する計画を策定した。

- ・Aエリア

(比較的線量の高い地域)・・・2.955世帯※

2012年5月 作業開始、2013年8月 完了

※ 特定避難勧奨地点を含む。

- ・Bエリア

(年間積算線量が5mSv以上の地域)

...3.912世帯

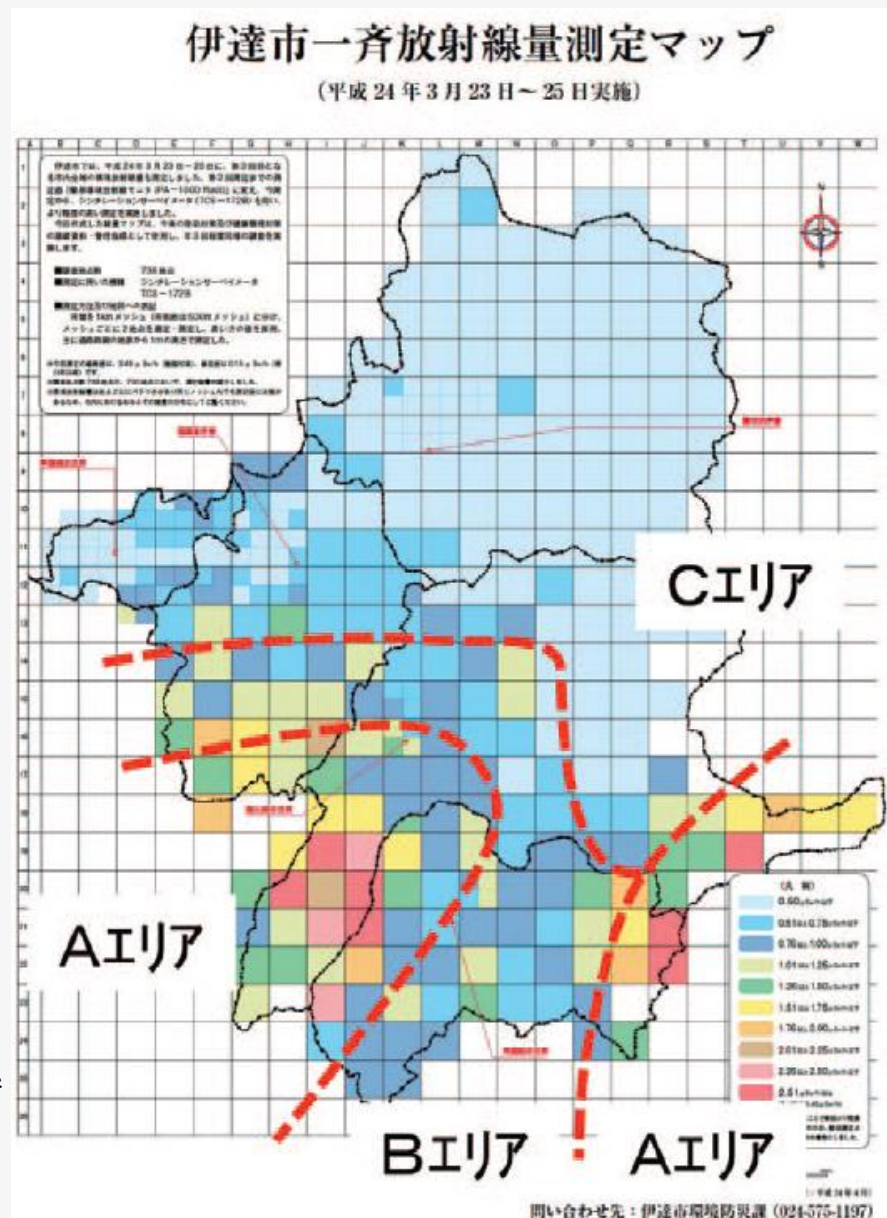
2012年10月 作業開始、2014年3月 完了

- ・Cエリア

(年間積算線量が1mSv以上の地域)

・・・15.125世帯（全世帯の7割）

除染推進センター等によって、ホットスポット(1cm高さで3 μ Sv/h)の除去を中心に作業、2014年3月 完了



4. 市民の安心のための取り組み

(1) 健康管理対策

- 福島第一原子力発電所事故により、放射性物質が広範囲に飛散し、伊達市も汚染の被害を受けた。このことにより、市民全体に放射能による健康被害への不安が大きくなった。
- 市では、この事態に対し、健康管理対策として、個人積算線量計(ガラスバッジ)による測定、内部被ばく検査(ホールボディカウンタ検査)の実施、健康相談など取り組み(心と体のケア事業)を行っている。

福島県で実施する県民健康調査(基本調査、詳細調査、甲状腺検査など)と併せ、放射能リスクのもとでの健康管理について、放射能健康管理計画を策定・実施し、少しでも市民の健康不安を和らげる取り組みを継続している。

5. 外部被ばく線量測定

ガラスバッジによる測定



- ・追加被ばく線量(自然被ばく及び医療被ばくを除いた被ばく線量。以下、外部被ばく線量という。)は、日常生活や職業により、個人毎に異なる。そのため、各個人の外部被ばく線量を知ってもらうこと、不安解消と健康管理に役立てることを目的に実施している。

【これまでの取り組み】

時期(測定期間)	対象者
(参考) 平成23 年3 月11 日～7 月11 日(4 ヶ月間)	(参考) 福島県県民健康管理調査(行動記録)により、この間の外部被ばく線量が推計される。
平成23 年8 月(1 ヶ月)	① 保育園児 ② 幼稚園児 ③ 小学生 ④ 中学生
平成23 年9 月～11 月(3 ヶ月)	① 0 歳～15 歳 ② 妊婦 ③ 特定避難勧奨地点の指定を受けた地区 (霊山小国、石田坂ノ上・八木平、月舘相葎)
平成23 年12 月～平成24 年2 月(3 ヶ月) 平成24 年4 月～6 月(3 ヶ月)	① 0 歳～15 歳 ② 妊婦 ③ 特定避難勧奨地点の指定を受けた地区 (霊山小国、石田坂ノ上・八木平、月舘相葎、保原富成)
平成24 年7 月～平成25 年6 月(3 ヶ月毎)	① 全市民対象(行動調査も同時に実施)
平成25 年7 月～平成26 年6 月(3 ヶ月毎)	① 0～15歳 ② 妊婦 ③ 除染ABエリア全員 ④ モニタリング抽出者＋希望者
平成26 年7 月～(3 ヶ月毎)	① 0～15歳 ② 妊婦 ③ 除染Aエリア全員 ④ モニタリング抽出者＋希望者

6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

全市民の実測値の外部被ばく測定結果を公表

(1) 市民全体の年間被ばく線量

- ・ 実施期間

平成24年7月～平成25年6月(3ヶ月毎に4回測定)

- ・ 対象者

全市民のうち、1年間継続して測定した人 **52,783人(全体の約81.2%)**

1) 市民全体の年間被ばく線量の平均値

0.89mSv

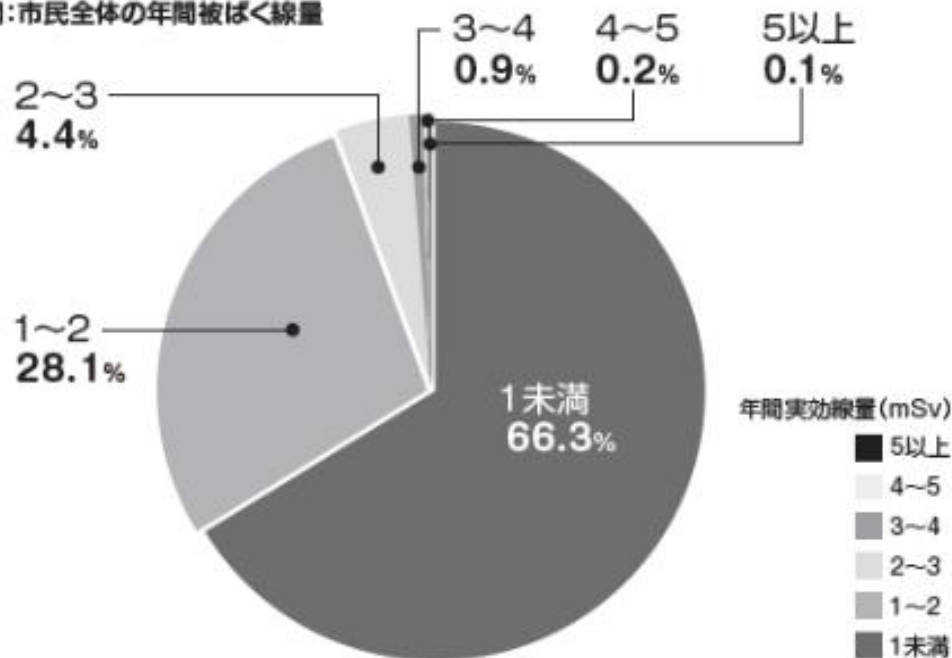
2) 市民全体の年間被ばく線量(分布)

年間1mSv未満が66.3%

年間1mSv～2mSv 未満が28.1%

年間2mSv ～3mSv未満は4.4%

●図:市民全体の年間被ばく線量



6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(2) 地域毎の年間被ばく線量(分布)



年間被ばく線量(mSv)



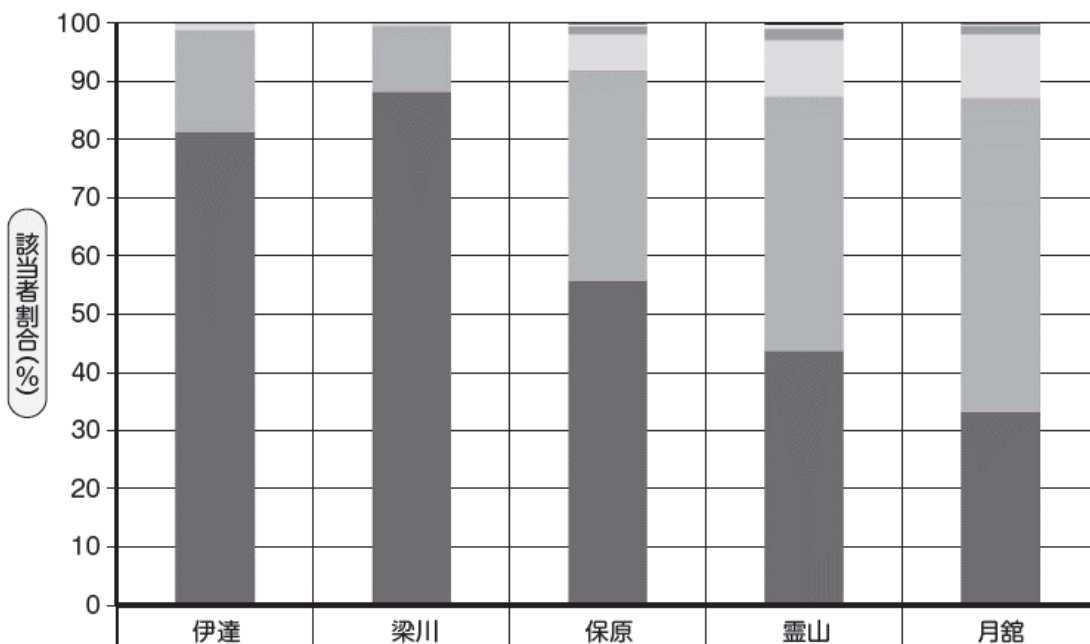
地域毎での年間被ばく線量の分布から、

1mSv未満の割合は

梁川地域で、88.2%と

最も多かった。

●図:地域毎の年間被ばく線量(分布)



年間被ばく線量(mSv)	伊達	梁川	保原	霊山	月舘
5以上	0.04%	0.01%	0.21%	0.35%	0.21%
4~5	0.11%	0.01%	0.36%	0.61%	0.21%
3~4	0.11%	0.04%	1.40%	1.97%	1.53%
2~3	0.96%	0.42%	6.06%	9.67%	10.89%
1~2	17.44%	11.31%	36.24%	43.66%	53.95%
1未満	81.33%	88.20%	55.73%	43.75%	33.20%

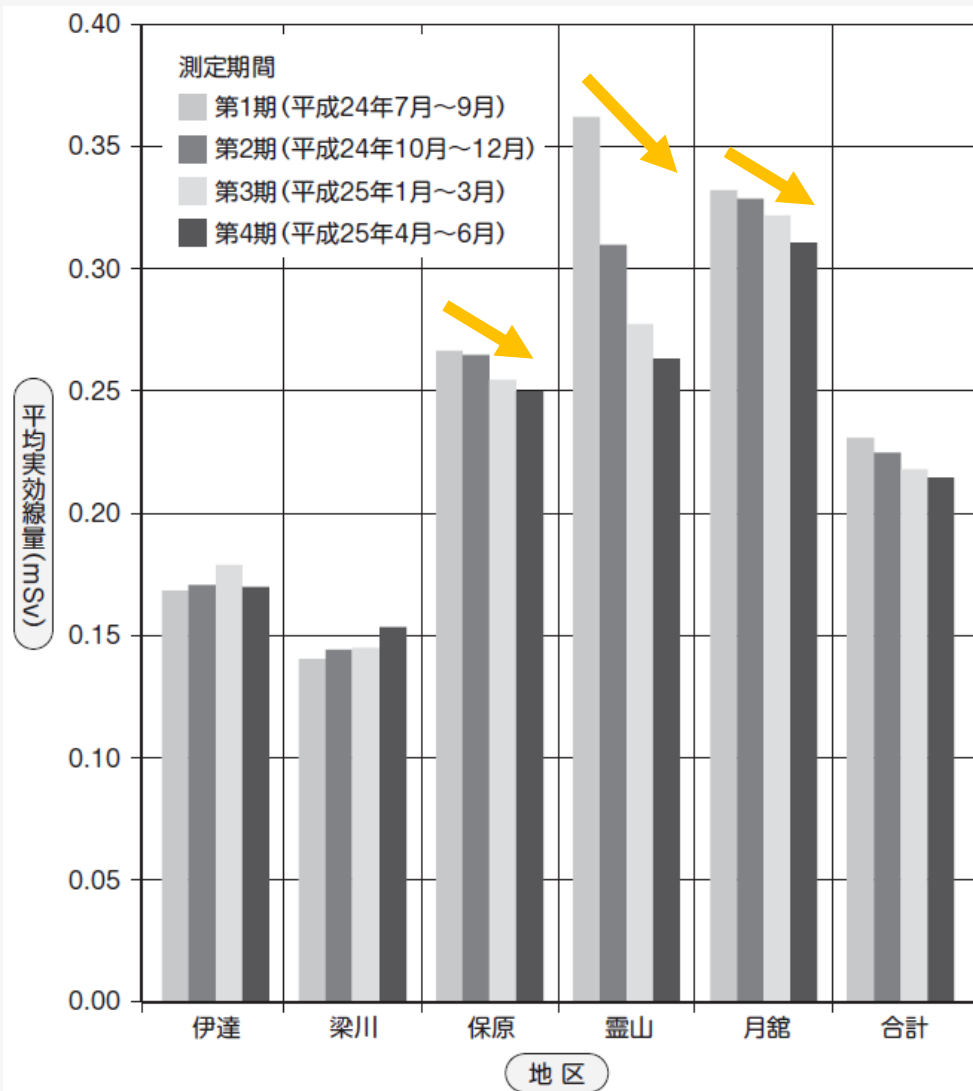
6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(3) 地域毎の測定期間(3ヶ月間)毎の外部被ばく線量の推移



1年間(4回測定)の推移について、
保原、霊山、月舘地域で減少傾向
が確認できた。

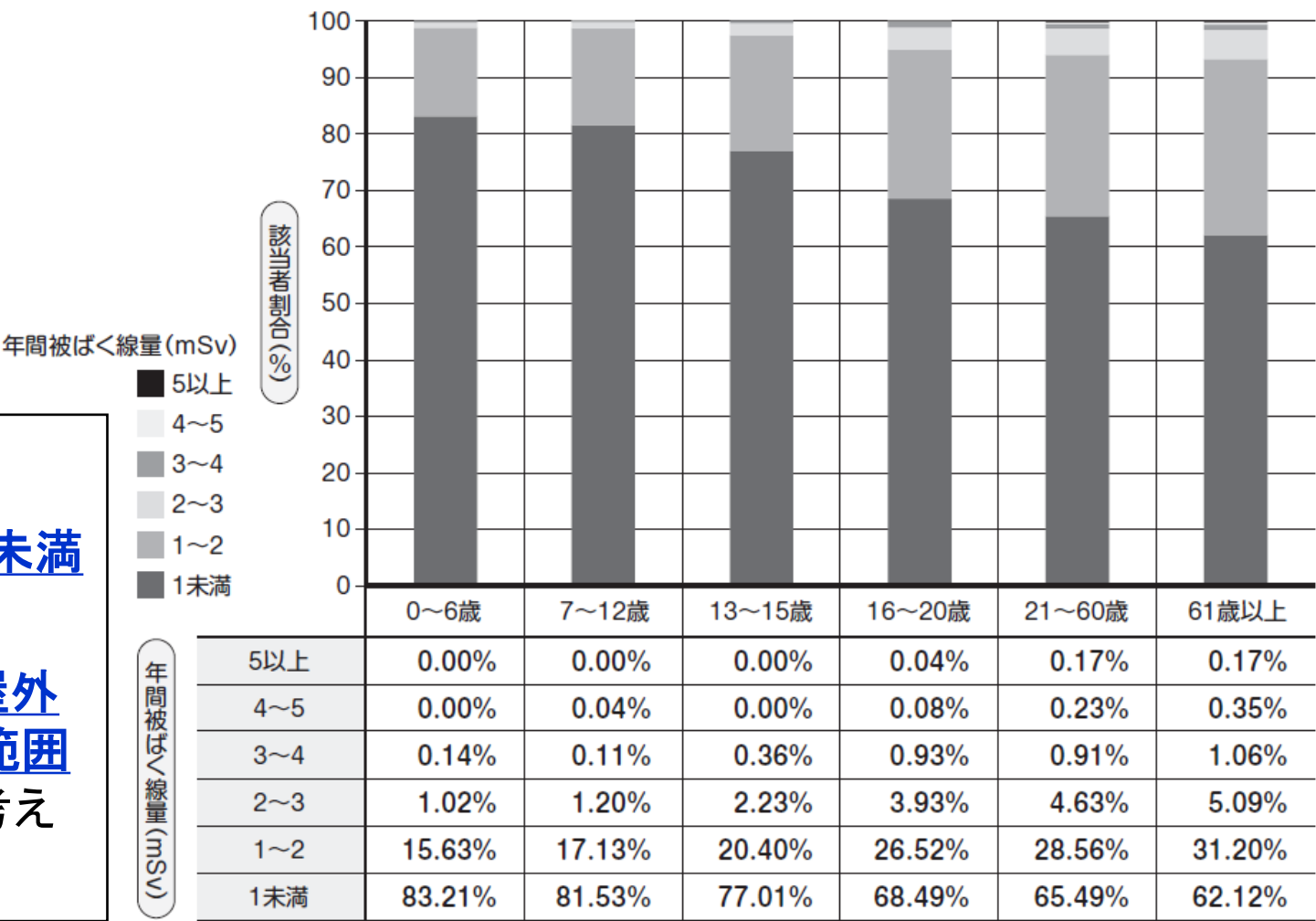
これは自然減衰等だけでなく、除
染による効果も考えられる。



6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(4) 年齢毎の年間被ばく線量(分布)

年齢比では、
子ども層は1mSv未満の割合が高い。
これは、職業や屋外活動時間、行動範囲
に関係があると考えられる。



6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(5)－①空間線量率と外部被ばく線量の相関

●表1: 予測値と実測値の年間追加被ばく線量一覧

(実測値の昇順)

大字単位	平均空間線量率 (μ Sv/h) (伊達市一斉 放射線量測定)	予測値 (mSv) A (国が示した計算式 からの予測値)	実測値 (mSv) B (ガラスバッジ測定 1年間の実測値)	実測値 予測値 (B/A)
梁川	0.247	1.088	0.499	45.9%
東大枝	0.256	1.135	0.505	44.5%
白根	0.230	0.999	0.521	52.2%
五十沢	0.309	1.414	0.567	40.1%
山舟生	0.230	0.999	0.572	57.3%
伊達	0.260	1.156	0.582	50.3%
富野	0.237	1.035	0.586	56.6%
堰本	0.333	1.540	0.726	47.1%
栗野	0.307	1.403	0.743	53.0%
泉原	0.311	1.424	0.769	54.0%
大石	0.299	1.361	0.788	57.9%
保原	0.344	1.598	0.855	53.5%
二井田	0.319	1.466	0.882	60.2%
箱崎	0.512	2.481	0.896	36.1%
大泉	0.301	1.372	0.941	68.6%
伏黒	0.446	2.134	0.941	44.1%
大立目	0.360	1.682	1.002	59.6%
中川	0.513	2.486	1.050	42.2%
金原田	0.417	1.982	1.065	53.7%

(実測値の昇順)

大字単位	平均空間線量率 (μ Sv/h) (伊達市一斉 放射線量測定)	予測値 (mSv) A (国が示した計算式 からの予測値)	実測値 (mSv) B (ガラスバッジ測定 1年間の実測値)	実測値 予測値 (B/A)
上保原	0.429	2.045	1.106	54.1%
山野川	0.471	2.265	1.129	49.8%
掛田	0.590	2.891	1.166	40.3%
布川	0.661	3.264	1.233	37.8%
月舘	0.862	4.320	1.234	28.6%
山戸田	0.640	3.154	1.242	39.4%
上手渡	0.622	3.059	1.248	40.8%
御代田	0.622	3.059	1.293	42.3%
石田	0.635	3.127	1.302	41.6%
下手渡	0.639	3.148	1.323	42.0%
柱田	0.655	3.232	1.339	41.4%
糠田	0.834	4.173	1.433	34.3%
所沢	0.594	2.912	1.550	53.2%
下小国	1.071	5.419	1.893	34.9%
高成田	0.866	4.341	1.916	44.1%
上小国	1.057	5.345	1.996	37.3%
富沢	0.924	4.646	2.368	51.0%
全体	0.510	2.470	0.888	36.0%

(注1)伊達市一斉放射線量測定値

市域を1kmメッシュ(市街地は500mメッシュ)に分け、主に道路路肩の地表から1mの高さで測定した空間線量率の値。

(注2)国が示した年間被ばく線量を予測するための計算式

予測年間追加被ばく線量(mSv) = 空間線量率(μ Sv/h) $\times$ (8h+16 h $\times$ 0.4) $\times$ 365(日) $\div$ 1000

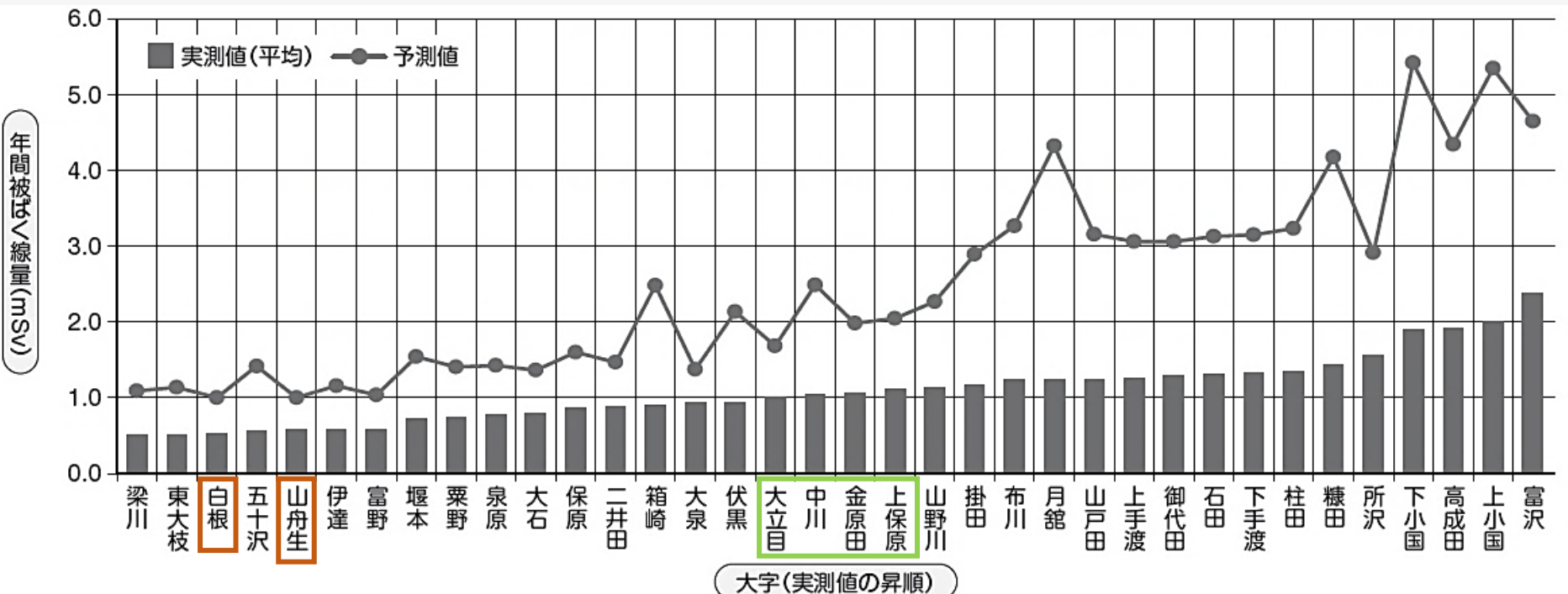
⌋上記①平均空間線量率から自然由来の放射線0.04 μ Sv/hを差し引いた値。

6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(5)－②空間線量率と外部被ばく線量の相関

市全域(平均)から、国が示す予測値より、ガラスバッジ測定実測値による年間追加被ばく線量は少ないことが確認できた。

- (1) 平均空間線量率が $0.23 \mu\text{Sv/h}$ の地区(白根、山舟生)では、予測値 1mSv に対し、実測値では $0.521 \sim 0.572\text{mSv}$ となった。また、実測値で約 1mSv となる地区(大立目、金原田、上保原、中川)での平均空間線量率は $0.36 \sim 0.513 \mu\text{Sv/h}$ となった。
- (2) 予測値と実測値の差は、空間線量率が低い地区ほど小さく、高い地区ほど大きくなった。

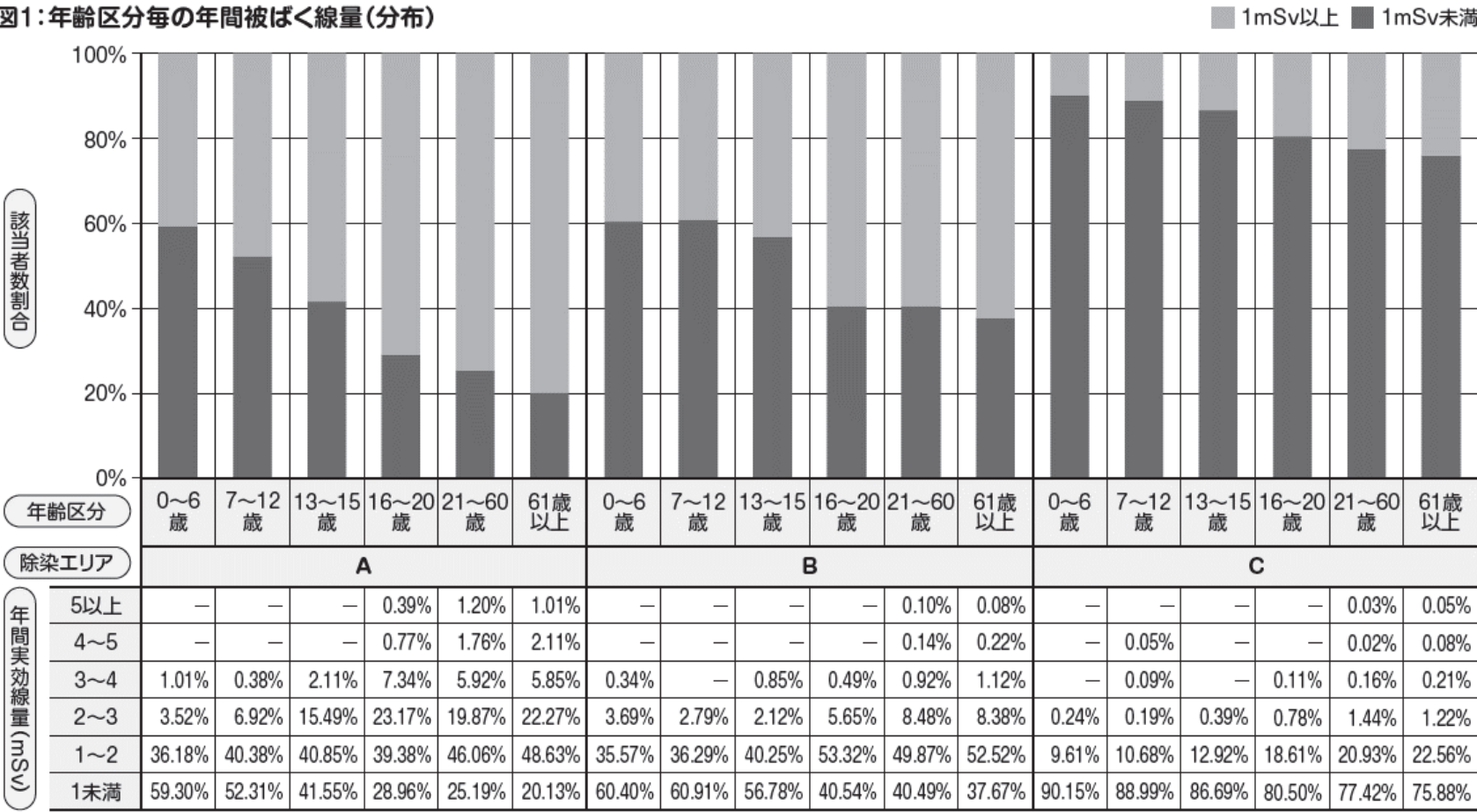


6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(6)除染エリア毎の年齢区分による年間被ばく線量(分布)

子どもは大人に比べて、除染ABCエリア共に1mSv未満の割合が高い。

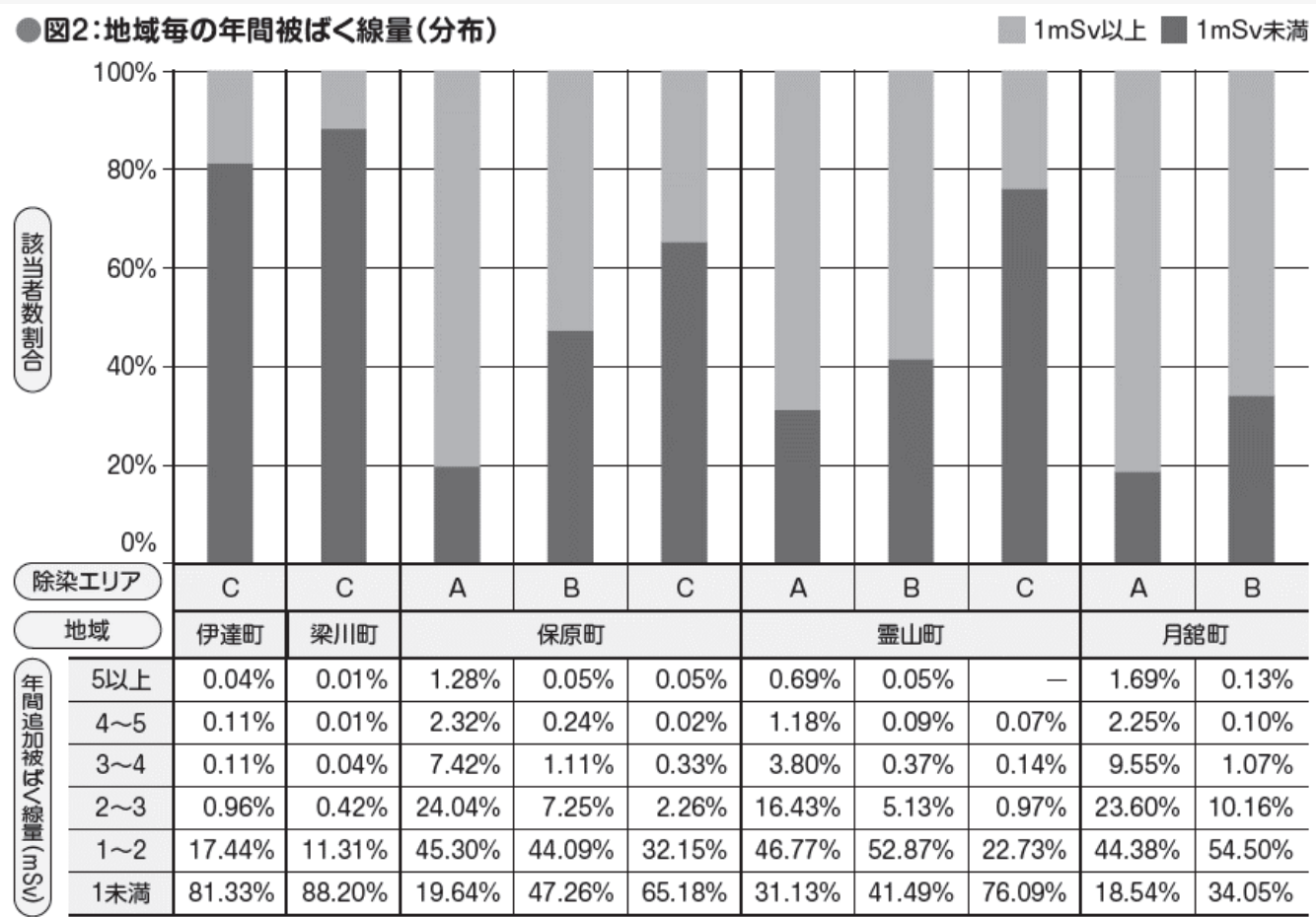
● 図1: 年齢区分毎の年間被ばく線量(分布)



6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(7) 地域毎の除染エリア区分による年間被ばく線量(分布)

各地域のCエリアでは1mSv未満の割合が高い。

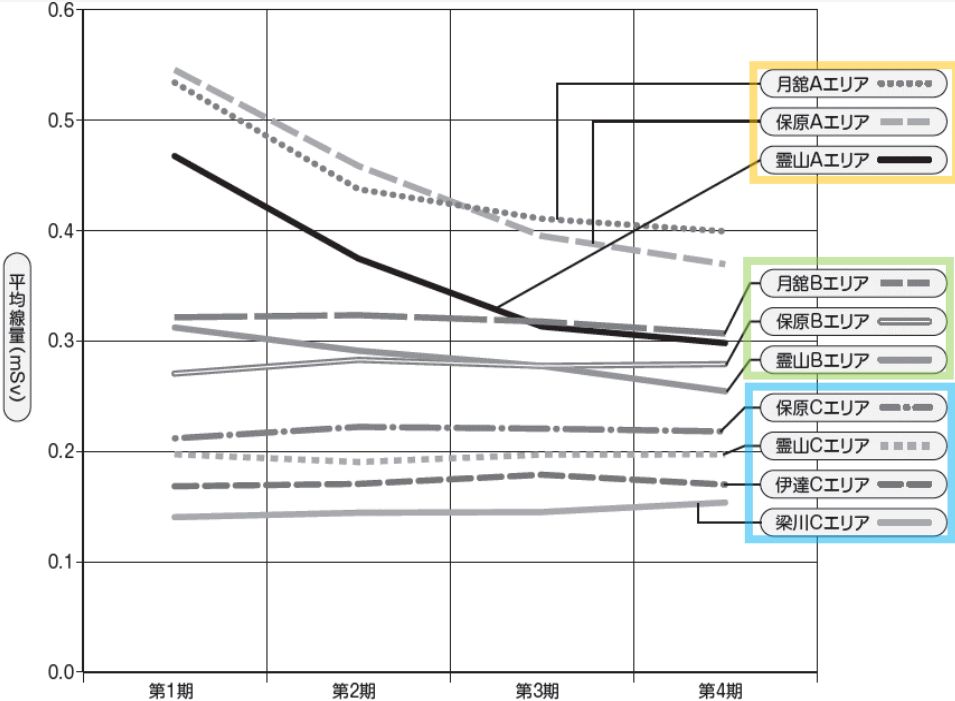


6. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の集計分析結果)

(8)地域の除染エリア毎の測定期間(3ヶ月間)の平均線量の推移

除染Aエリア(保原、霊山、月舘)については、減少傾向であった。これは、自然減衰等だけでなく、除染による効果も考えられる。

除染Cエリアについては、どの地域についても除染A・Bエリア区分より低い値で推移している。



町区分	除染エリア	平均線量 (mSv)				年間平均 追加被ばく線量
		第1期	第2期	第3期	第4期	
		2012年7月～9月	2012年10月～12月	2013年1月～3月	2013年4月～6月	
伊達	C	0.168	0.171	0.179	0.170	0.688
梁川	C	0.140	0.144	0.145	0.154	0.583
保原	A	0.546	0.459	0.395	0.370	1.769
	B	0.269	0.282	0.277	0.278	1.106
	C	0.212	0.223	0.221	0.219	0.874
霊山	A	0.468	0.375	0.313	0.298	1.454
	B	0.311	0.290	0.276	0.254	1.131
	C	0.197	0.190	0.197	0.198	0.782
月舘	A	0.534	0.438	0.411	0.399	1.782
	B	0.321	0.322	0.317	0.306	1.265

7. 外部被ばく線量測定(行動実態調査による集計分析結果)

(1)対象者(36,721人)の内訳

・対象者

全市民のうち、1年間(平成24年7月～平成25年6月)継続して測定し、行動実態調査の回答があった人 **36,721人**

・行動調査の内容

① 職業 ② 屋外行動時間数(1日あたりの平均) ③ 屋外での主な行動内容

年間外部被ばく線量(mSv)	職業									
	会社員		農業		建設業		主婦		その他	
	該当者数	割合	該当者数	割合	該当者数	割合	該当者数	割合	該当者数	割合
0～1	7,719人	66.61%	1,930人	52.91%	485人	53.18%	4,494人	69.67%	10,279人	72.78%
1～2	3,267人	28.19%	1,291人	35.39%	335人	36.73%	1,725人	26.74%	3,342人	23.66%
2～3	459人	3.96%	322人	8.83%	72人	7.89%	190人	2.95%	398人	2.82%
3～4	108人	0.93%	71人	1.95%	12人	1.32%	26人	0.40%	73人	0.52%
4～5	21人	0.18%	18人	0.49%	7人	0.77%	9人	0.14%	16人	0.11%
5以上	14人	0.12%	16人	0.44%	1人	0.11%	6人	0.09%	15人	0.11%
合計	11,588人	—	3,648人	—	912人	—	6,450人	—	14,123人	—

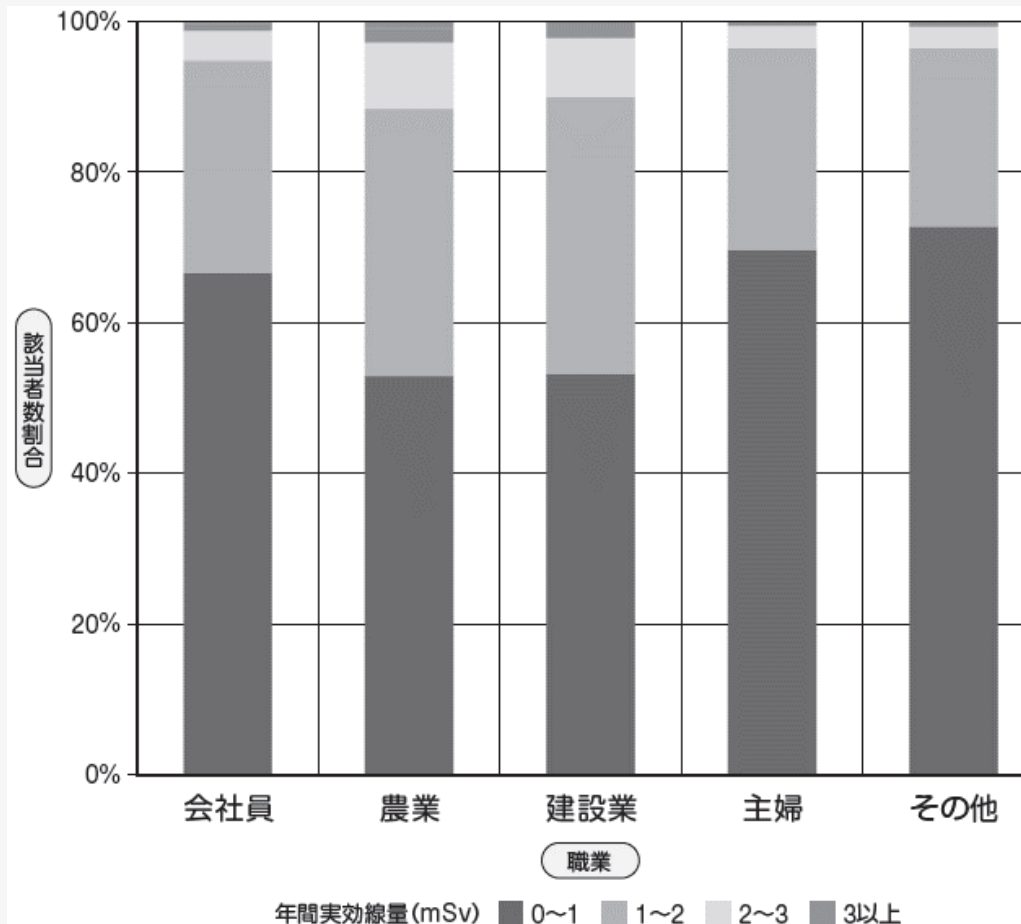
7. 外部被ばく線量測定(行動実態調査による集計分析結果)

(2) 職業区分による年間被ばく線量

農業で1.13mSv、建設業で1.07mSv、主婦で0.83mSvとなった。

また、どの職業でも半数以上の人
が、年間被ばく線量1mSv未満となつた。

職業	平均年間被ばく線量 (mSv)
会社員	0.88
農業	1.13
建設業	1.07
主婦	0.83
その他	0.79



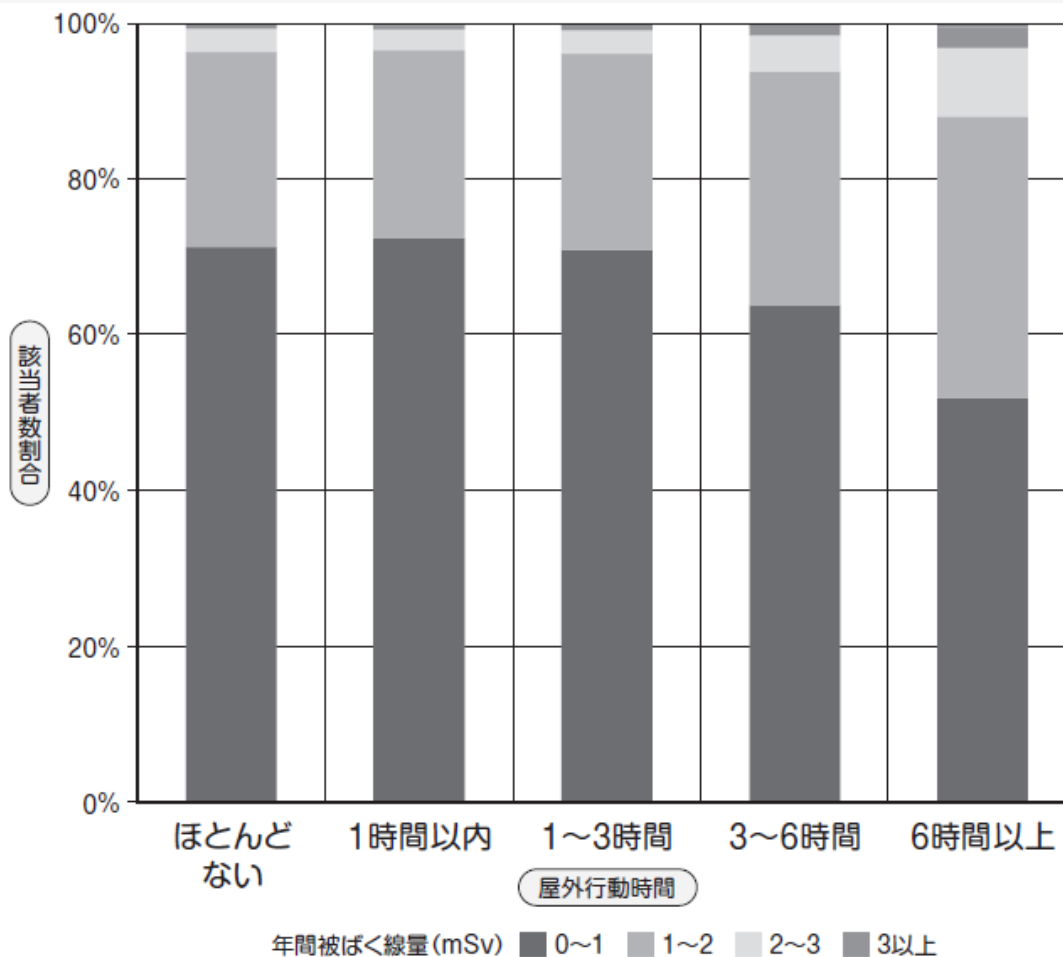
7. 外部被ばく線量測定(行動実態調査による集計分析結果)

(3) 屋外行動時間と年間被ばく線量

屋外行動時間による平均年間被ばく線量は、
屋外行動時間に比例すること
 が確認できた。

屋外行動時間	平均年間被ばく線量 (mSv)
ほとんどない	0.78
1時間以内	0.80
1～3時間	0.82
3～6時間	0.93
6時間以上	1.14

※屋外行動時間：1日あたりの屋外行動時間数



7. 外部被ばく線量測定(行動実態調査による集計分析結果)

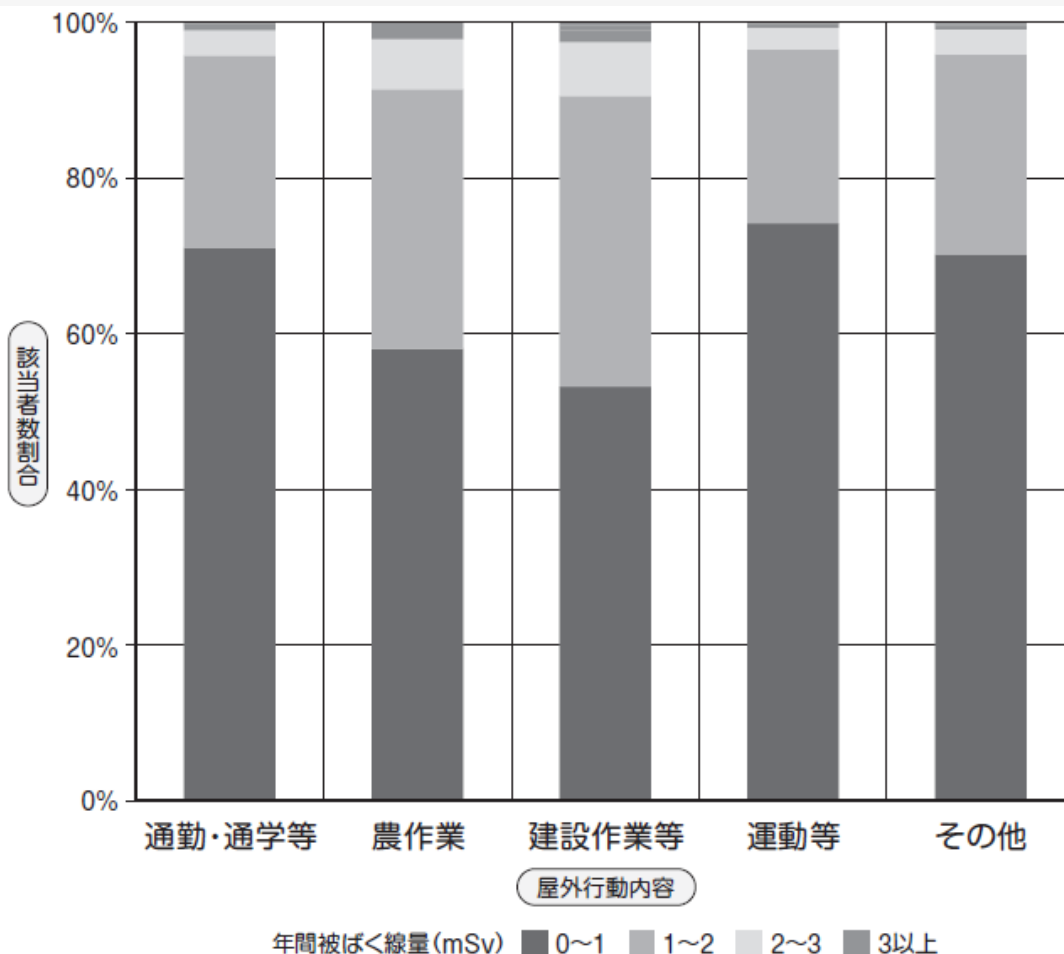
(4) 屋外の主な行動内容と年間被ばく線量

平均年間被ばく線量は、
通勤・通学等や運動等では
1mSvを下回った。

平均年間被ばく線量

主な行動内容	平均年間被ばく線量 (mSv)
通勤・通学等	0.82
農作業	1.03
建設作業等	1.07
運動等	0.78
その他	0.83

※複数回答あり



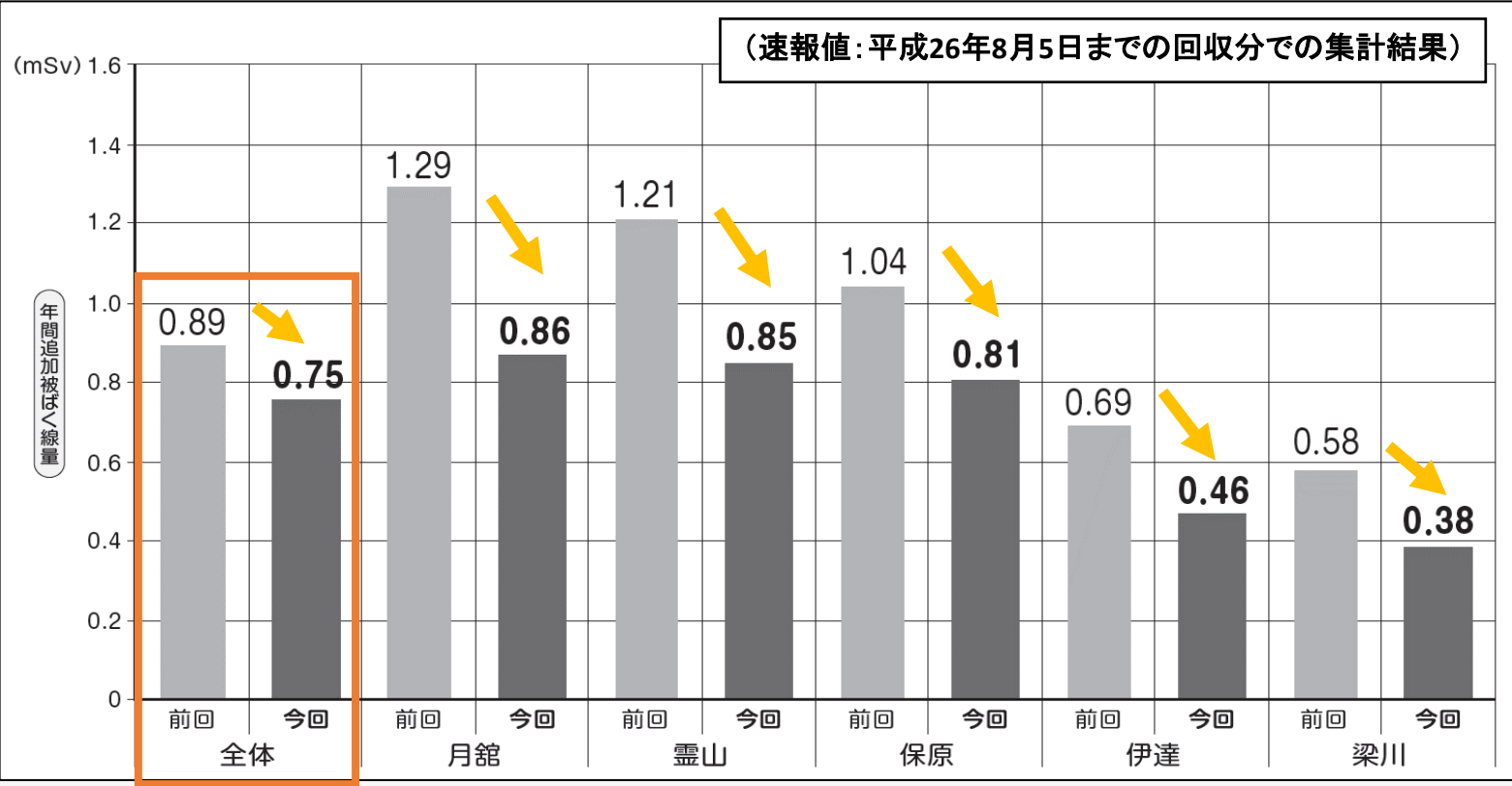
8. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の年間ごとの比較)

(1) 平均値の前回との比較

(前回) 平成24年7月～平成25年6月 (今回) 平成25年7月～平成26年6月

平成25年7月～平成26年6月の年間個人追加被ばく線量の平均は、全体で0.75mSvとなっており、前回(0.89mSv)より減少している。

減少の要因は、除染が進んだことと放射性物質の自然減衰が考えられる。



注: 平成25年7月～平成26年6月は、Cエリアについては、希望者、モニタリングの測定となっており、測定者は減少している。

8. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の年間ごとの比較)

(2) 年間追加被ばく線量分布の前回との比較

平成25年7月から平成26年6月までの年間追加被ばく線量ごとの該当者数の分布は、

1mSv未満が74.58%。

(前回より8.32ポイント増加)

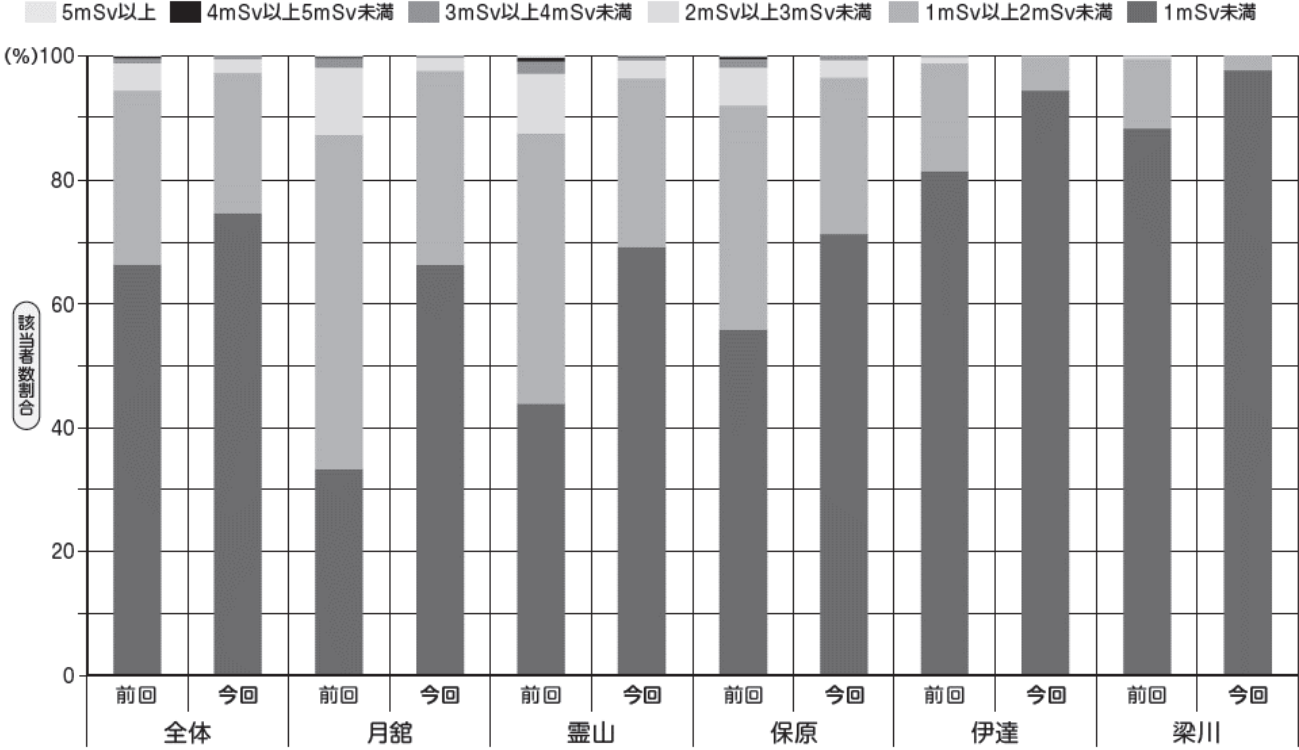
1～2mSv未満では22.61%。

2～3mSv未満は2.22%。

梁川地域で、1mSv未満の割合が最も多く、97.62%。

(速報値:平成26年8月5日までの回収分での集計結果)

注:平成25年7月～平成26年6月は、Cエリアについては、希望者、モニタリングの測定となっており、測定者は減少している。



年間追加被ばく線量 (mSv)	全体		月舘		霊山		保原		伊達		梁川	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
5以上	0.14	0.06	0.21	0.04	0.35	0.10	0.21	0.05	0.04	0.06	0.01	0.00
4～5	0.24	0.06	0.21	0.00	0.61	0.16	0.36	0.04	0.11	0.06	0.01	0.00
3～4	0.88	0.46	1.53	0.31	1.97	0.55	1.40	0.65	0.11	0.00	0.04	0.00
2～3	4.38	2.22	10.89	2.12	9.67	2.87	6.06	2.82	0.96	0.06	0.42	0.05
1～2	28.10	22.61	53.95	31.32	43.66	27.24	36.24	25.29	17.44	5.45	11.31	2.33
1未満	66.26	74.58	33.20	66.21	43.75	69.08	55.73	71.15	81.33	94.35	88.20	97.62

9. 外部被ばく線量測定(D-シャトル)

(1) 高性能電子線量計(D-シャトル)の活用

- 個人管理による被ばく線量の低減を目指し、高値者等に1時間毎の積算線量値が確認可能なD-シャトルを配布し、訪問調査等による原因の特定に取り組んでいる。

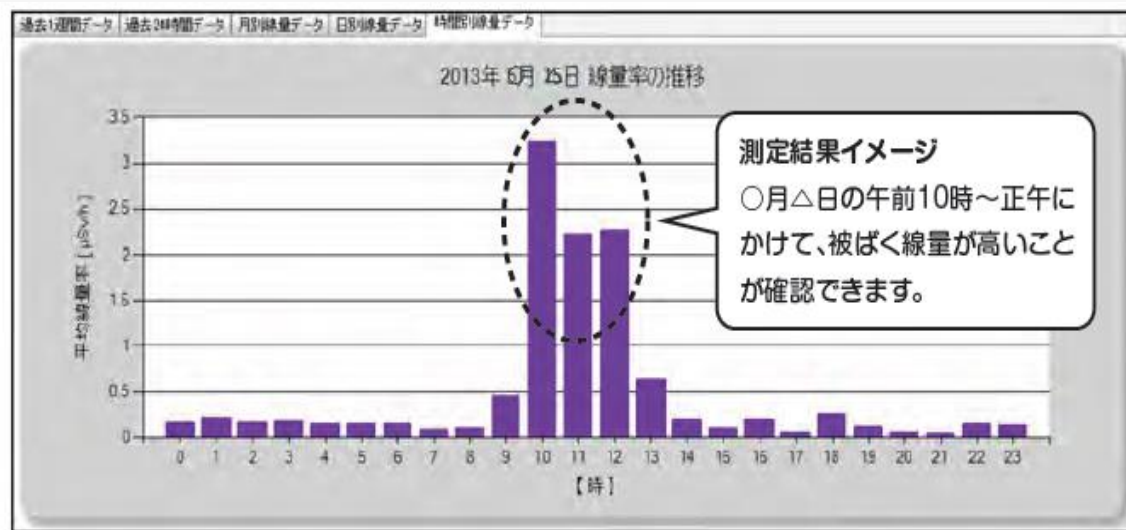
①空間線量率の

比較的高い場所の把握

②屋外での作業内容など

特定の行動による

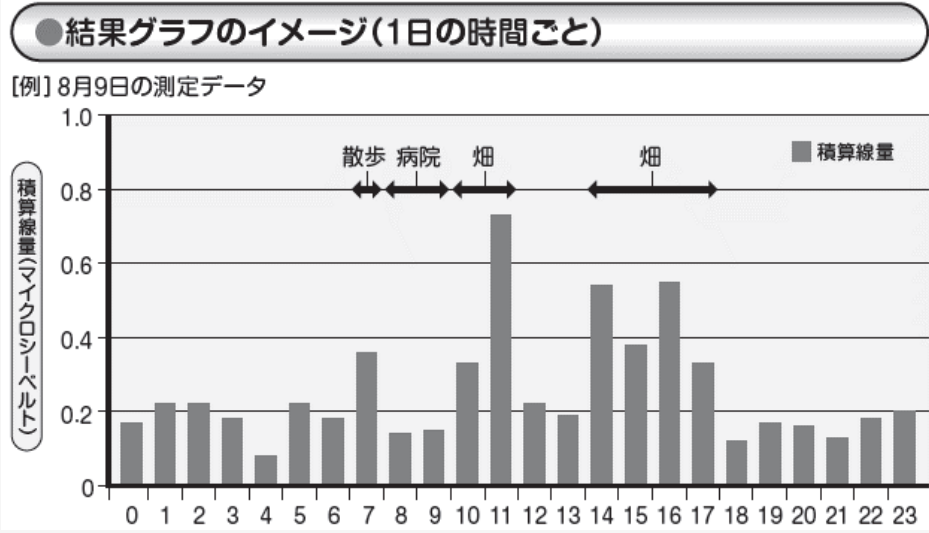
外部被ばく線量値を把握



9. 外部被ばく線量測定(D-シャトル)

(2) D-シャトル活用 of これまでの取り組み

測定期間	対象者	実施内容
平成25年度(2週間)	平成24年7月～平成25年6月の外部被ばく線量が5mSv以上の方等	測定者は、D-シャトルを2週間程度の装着・測定し、期間中の行動記録(内容、場所)を作成する。 市による回収後、結果を解析し、その内容について説明している。 1回当たりの測定サイクル(配布～測定～回収～結果送付)は約1ヶ月間。
平成26年度(2週間)	平成24年7月～平成25年6月の外部被ばく線量が4mSv以上の方、15歳以下のこどもで年間2mSvを以上の方等	
	不安があり測定を希望する市民	



記入例 行動記録票 線量計番号: 1

① 主な生活パターンを記入してください(自宅以外)

A	会社	B	スーパー	C	火田	D		E	
---	----	---	------	---	----	---	--	---	--

② 上記①の生活パターンA～Eを、時間帯に合わせて、記入してください。
それ以外の場合は、行動内容を記入してください。

月日	午前	午後
8/6	A	B
8/7	A	00:00 夜間
8/8	A	B
8/9	散歩 病院 → C	C
8/10	00:00 夜間	ショッピング

10. 外部被ばく線量測定の効果

(1) 外部被ばく線量測定の効果

- 見えない放射能に不安を感じる市民が多い中、空間放射線量から年間追加被ばく線量を推測するのではなく、自分の線量の実測値を確認できた。
- 日常生活において、外部から受ける年間追加被ばく線量は、国が示した予想値より少ないことが確認できた。
- 測定結果から、市政アドバイザーより「伊達市に居住する市民の皆さんが、放射能による人体への影響を受けることは考えにくいと思われる」という見解が示された。

11. 内部被ばく線量測定

- ・ 現在、大気中にセシウムが飛散しているとは考えにくいことから、内部被ばく線量は食生活(経口摂取)による影響が大きいと考えられる。
- ・ そのことから内部被ばく線量には個人差があるためホールボディカウンタ(WBC)による内部被ばく検査を実施している。

時期	検査場所と検査対象	実施主体
平成23年10月	南相馬市立総合病院で小学生の検査開始	福島県
平成23年11月	南相馬市立総合病院で中学生の検査開始	福島県
	福島県労働保健センターで妊産婦、乳幼児保護者、高校生の検査開始	伊達市
平成24年1月	車載式WBCで中学生の検査開始	福島県
	ひらた中央病院で小学生の検査開始	伊達市
平成24年2月	車載式WBCで小学生の検査開始 車載式WBCで中学生の検査開始	福島県
平成24年3月	車載式WBCで高校生の検査開始	
平成24年4月	車載式WBCで4～6歳児の検査開始	
平成24年5月	福島県労働保健センターで19歳以上の検査開始	伊達市
平成24年8月	中野病院と梁川病院にホールボディカウンタを設置 中野病院と梁川病院で19歳以上の検査開始	
平成25年3月	4歳以上の全市民への受検案内終了(以降、年1回の測定)	
平成26年1月	1歳以上、4歳未満の市民の受検開始	



11. 内部被ばく線量測定

(1) 第1回目の検査結果(平成23年度及び24年度)

ホールボディカウンタによる内部被ばくの検査について、平成23年度及び24年度は、受検者43,261人全員が預託実効線量1mSv未満となった。

(1) 受検状況 (平成25年 3月31日現在)

年度	対象者区分		通知者数（人）	受検者数（人）	受検率（％）
23年度	妊婦、未就学児の 保護者、小・中学 生、高校生など		12,152	9,660	79.5
24年度	4歳～6歳		1,384	1,112	80.3
	妊 婦		191	122	63.9
	19歳 以上	霊 山	7,291	4,135	56.7
		月 舘	3,314	1,996	60.2
		保 原	19,063	11,752	61.7
		梁 川	15,883	9,748	61.4
		伊 達	8,976	4,736	52.8
		計	54,527	32,367	59.4
	24年度計		56,102	33,601	59.9
合 計		※68,254	43,261	63.4	

※平成23年 3月11日以降の転出・転入者への検査案内等により、通知人数が人口を上回った。

11. 内部被ばく線量測定

(2) 第2回目の検査結果(平成25年度)

受検者29,020人全員が預託実効線量1mSv未満となった。

なお、第1回目(平成23年10月～平成25年3月)の検査で放射性セシウムの検出があった方は受検者の約9%であったが、第2回目の検査で検出があった方は受検者の約3%となり、第1回目と比較すると1/3程度に減少したことが確認できた。

対象者区分		案内者数(対象者数)	受検者数	受検率
18歳以下	未就学児	2,061人	1,041人	50.5%
	小学生	3,234人	3,168人	98.0%
	中学生	1,955人	1,871人	95.7%
	高校生	2,026人	811人	40.0%
	小計	9,276人	6,891人	74.3%
19歳以上	靈山	7,005人	2,867人	40.9%
	月舘	3,139人	1,382人	44.0%
	保原	18,892人	8,211人	43.5%
	梁川	15,270人	6,298人	41.2%
	伊達	8,978人	3,371人	37.5%
	小計	53,284人	22,129人	41.5%
計		62,560人	29,020人	46.4%

11. 内部被ばく線量測定

(3) 内部被ばく線量測定の効果

- 受検者全員が預託実効線量1ミリシーベルト未満となり、健康に影響が及ぶと考えられる値ではないことが確認できた。
- 検査結果で放射性セシウムの検出がある場合、その原因が特定の食習慣にあることがわかってきている。国で定めた基準値を超えた食物などを食べ続けないことを周知できた。

12. 心と体のケア事業

- ・放射能・放射線の健康被害の不安解消のために、正しい知識の普及啓発、不安が強い方へのきめ細やかな支援、癒しやリフレッシュの方法を啓発する。

(1)放射能健康相談窓口

(2)放射能Q & A講話

放射能・放射線の正しい知識、食の安全性についての啓発。

(3)運動不足解消教室

子どもの体力増進や肥満予防対策のため、教育委員会と連携して、定期的を開催。

12. 心と体のケア事業

心と体のケア事業の効果

【アンケートによる市民の声 講話前と講話後】(対象:平成24年5月～25年1月 食品の安全性講話受講者 1,026 名)

講話前

図1 講話前 伊達市に住み続ける不安がある

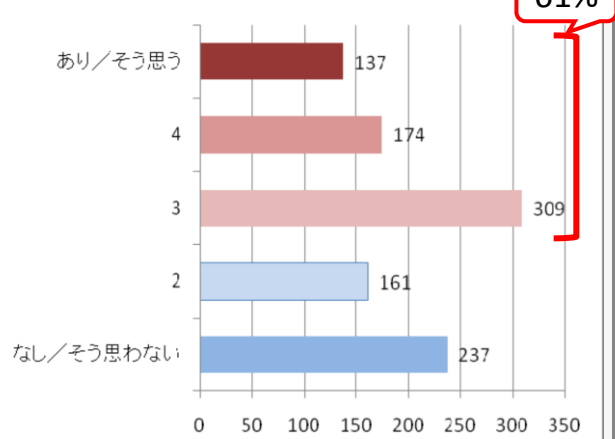


図2 講話前 福島産の食べ物を食べるか

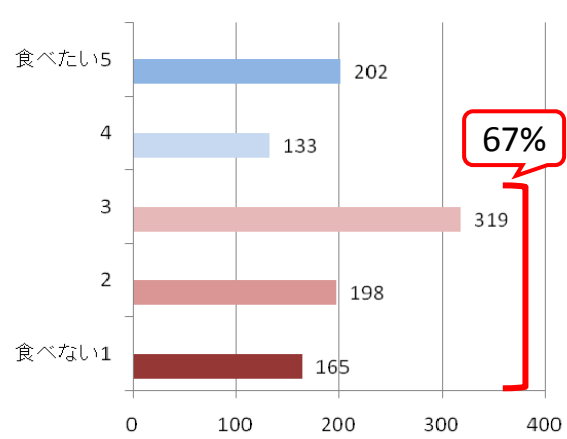


図3 講話前 あなたの放射線の不安度

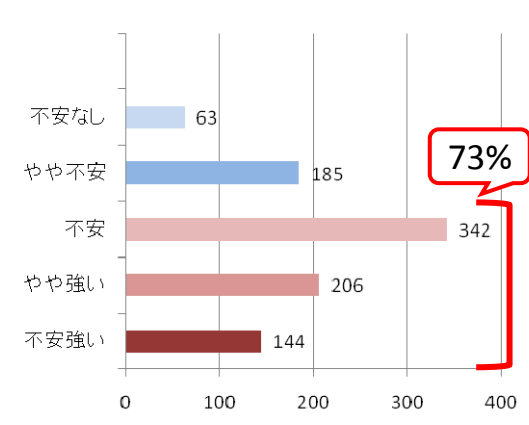
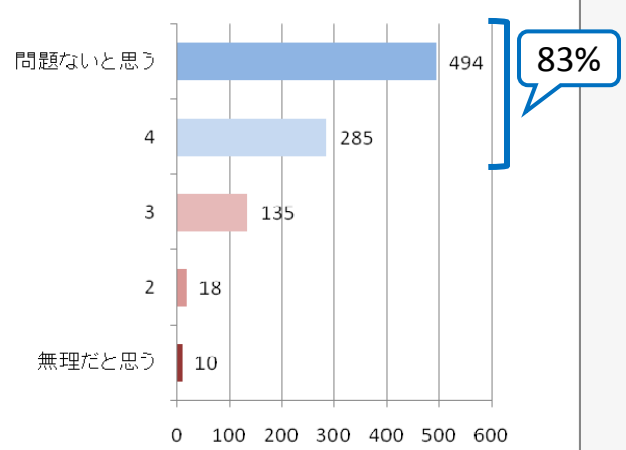


図4 講話後 伊達市で生活できるか



講話後

- 市民の放射能・放射線にかかる不安は、「放射能・放射線の講話」や「放射能健康相談」の実施により、沈静化してきている。
- 【講話後のアンケート】では伊達市で問題なく生活できると83%の方が答え、講話の効果が見られた。

12. 心と体のケア事業

(4) 元気アップ復興隊

(臨床心理士、保育士、保健師、作業療法士等による
専門家チーム)

【お茶のみ会(健康相談・ミニ講話)】

ストレス解消のミニ講話と体操などを行い、お茶会を開催。

【乳幼児健診時のサポート】

個別相談や簡単な親子の関わり方、遊び方の指導。

【ミニ出前講座】

県外に自主避難をしている方に対して、出前講座を開催し、親子遊びやリラクセーションなどをする。

【お遊び・おしゃべり場】

帰還者親子のメンタル支援をし、帰還地域への再適応を図る。

13. 放射能健康管理の今後の取り組み

(1) 外部被ばく線量測定

【正しい測定の周知、結果の公表】

- 正しい使用方法や、測定期間の厳守等を周知して精度の向上を図るとともに、データの利活用の促進、集計分析情報を公表することで、不安解消等を図る。

【高値者への長期的なフォロー】

- 現在までの測定結果で、高値者と認定された方について、高性能電子線量計を活用するなど、継続的に健康管理による訪問調査、支援等が必要。

13. 放射能健康管理の今後の取り組み

(2) 内部被ばく線量測定

【定期的な測定の周知、結果の公表】

- 摂取する食物が個人毎に異なることから、市民の健康不安の解消と今後の健康管理のために、受検勧奨をしながら、継続的に検査を実施していく。

(3) 心と体のケア事業

【不安やストレスの解消】

- 放射能・放射線への正しい情報提供と健康づくりに関する知識の普及を図ることで、心身ともに健康な生活を送れるようサポートする「心と体のケア事業」を継続する。
このため、地域での相談活動の充実と不安が強い世帯への個別支援等をしていくために、臨床心理士等による元気アップ復興隊の活動を実施していく。

14. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の年間ごとの比較:確定値)

(1) 平均値の前回との比較

◎対象者及び実施期間

前回

52,783人 (平成24年7月～平成25年6月測定) ※平成25年10月1日現在

①全市民のうち、1年間継続して測定した人

今回

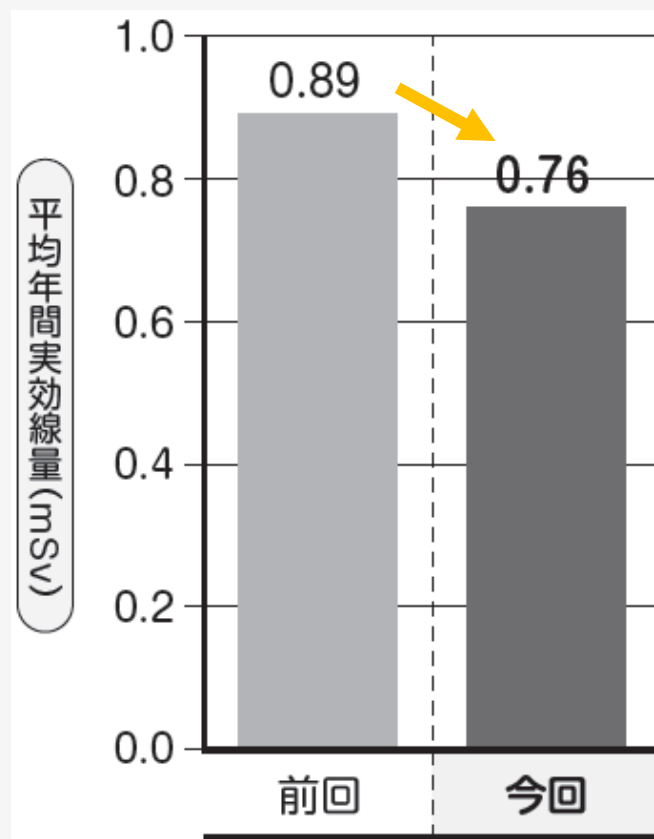
21,080人 (平成25年7月～平成26年6月測定) ※平成26年10月1日現在

①0～15歳・妊婦・ABエリア全員
②モニタリング抽出者
③希望者

①②③のうち、
1年間継続して測定した人

(前回) 平成24年7月～平成25年6月

(今回) 平成25年7月～平成26年6月



平成25年7月～平成26年6月の年間個人追加被ばく線量の平均は、**全体で0.76mSvとなっており、前回(0.89mSv)より減少している。**

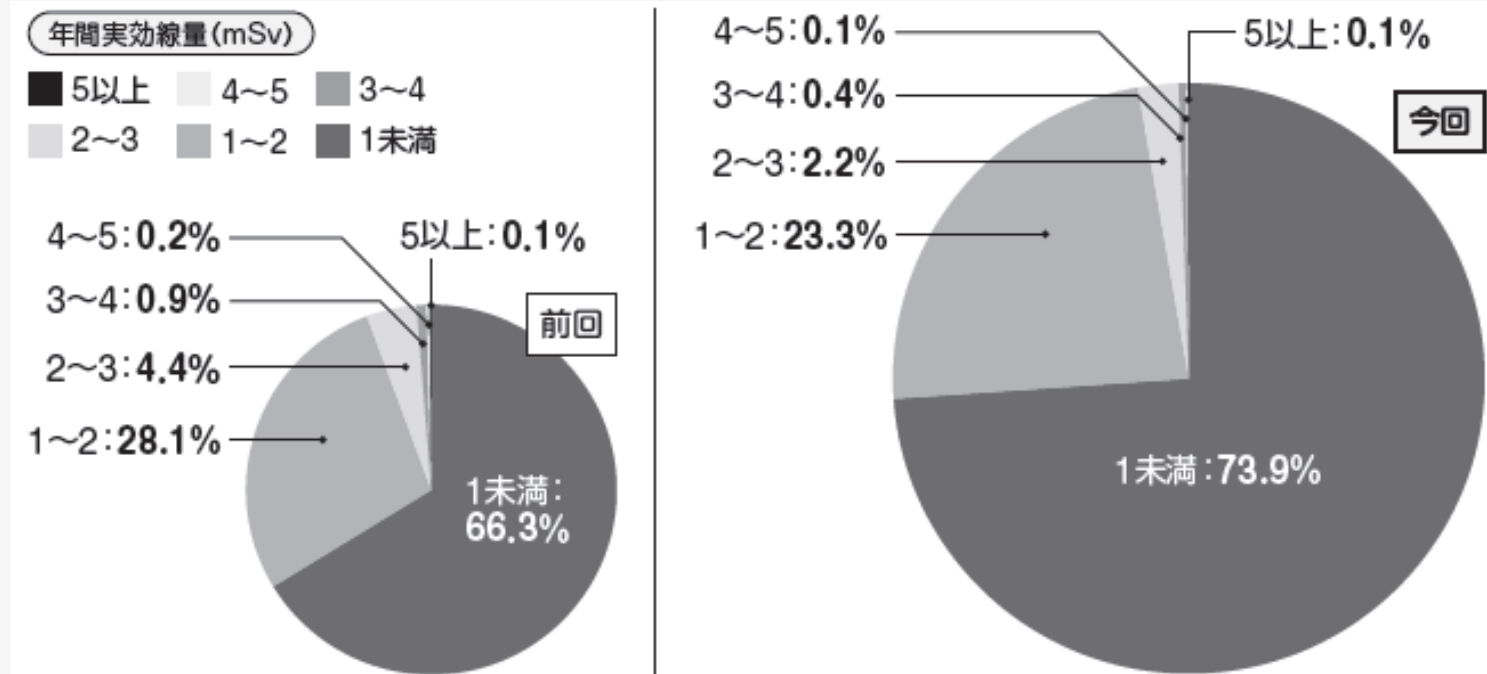
減少の要因は、除染が進んだことと放射性物質の自然減衰が考えられる。

注: 平成25年7月～平成26年6月は、Cエリアについては、希望者、モニタリングの測定となっており、測定者は減少している。

14. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の年間ごとの比較:確定値)

(2) 年間追加被ばく線量分布の前回との比較

平成25年7月から平成26年6月までの年間追加被ばく線量ごとの該当者数の分布は、
1mSv未満が73.9%(前回より7.6ポイント増加)
1～2mSv未満では23.3%。2～3mSv未満は2.2%。



注: 平成25年7月～平成26年6月は、Cエリアについては、希望者、モニタリングの測定となっており、測定者は減少している。

14. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の年間ごとの比較:確定値)

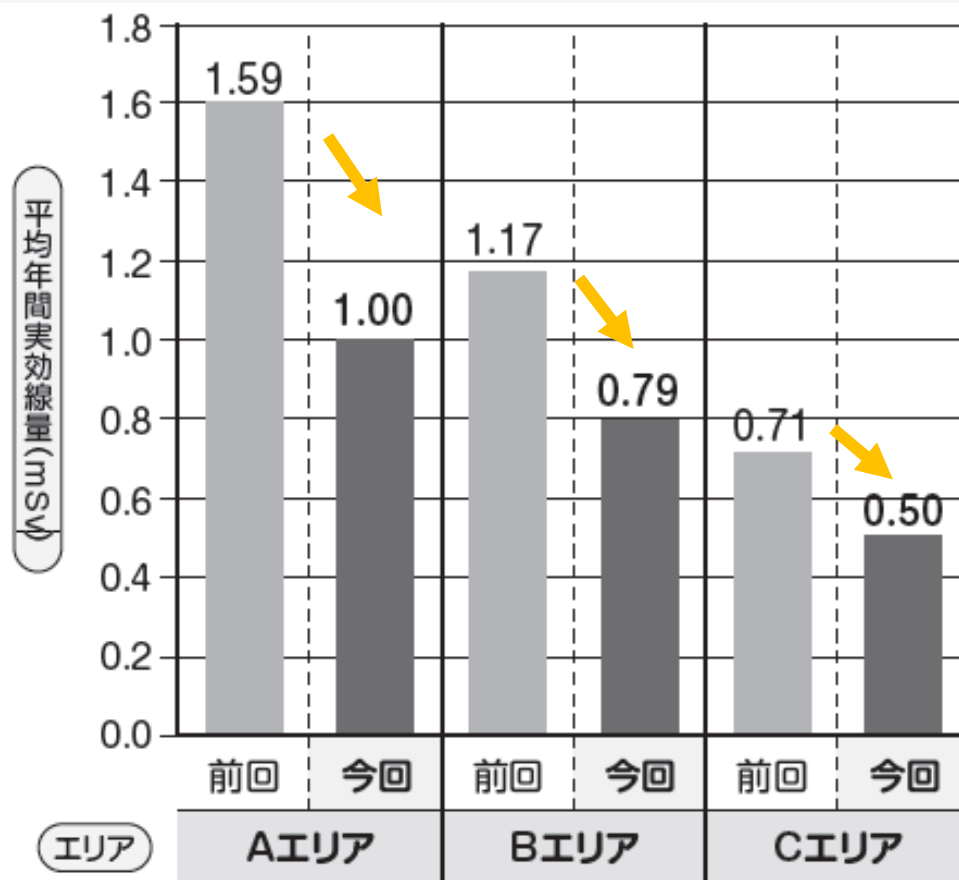
(3) 除染エリア別の平均値の前回との比較

(前回) 平成24年7月～平成25年6月

(今回) 平成25年7月～平成26年6月

各エリアとも、前回と比べ、
0.21mSv～0.59mSvの減少が見
られた。

特に、Aエリアは、0.59mSvと最も減少しており、この要因は、除染の効果と自然減によるものと考えられる。



注: 平成25年7月～平成26年6月は、Cエリアについては、希望者、モニタリングの測定となっており、測定者は減少している。

14. 外部被ばく線量測定(年間外部被ばく線量の年間ごとの比較:確定値)

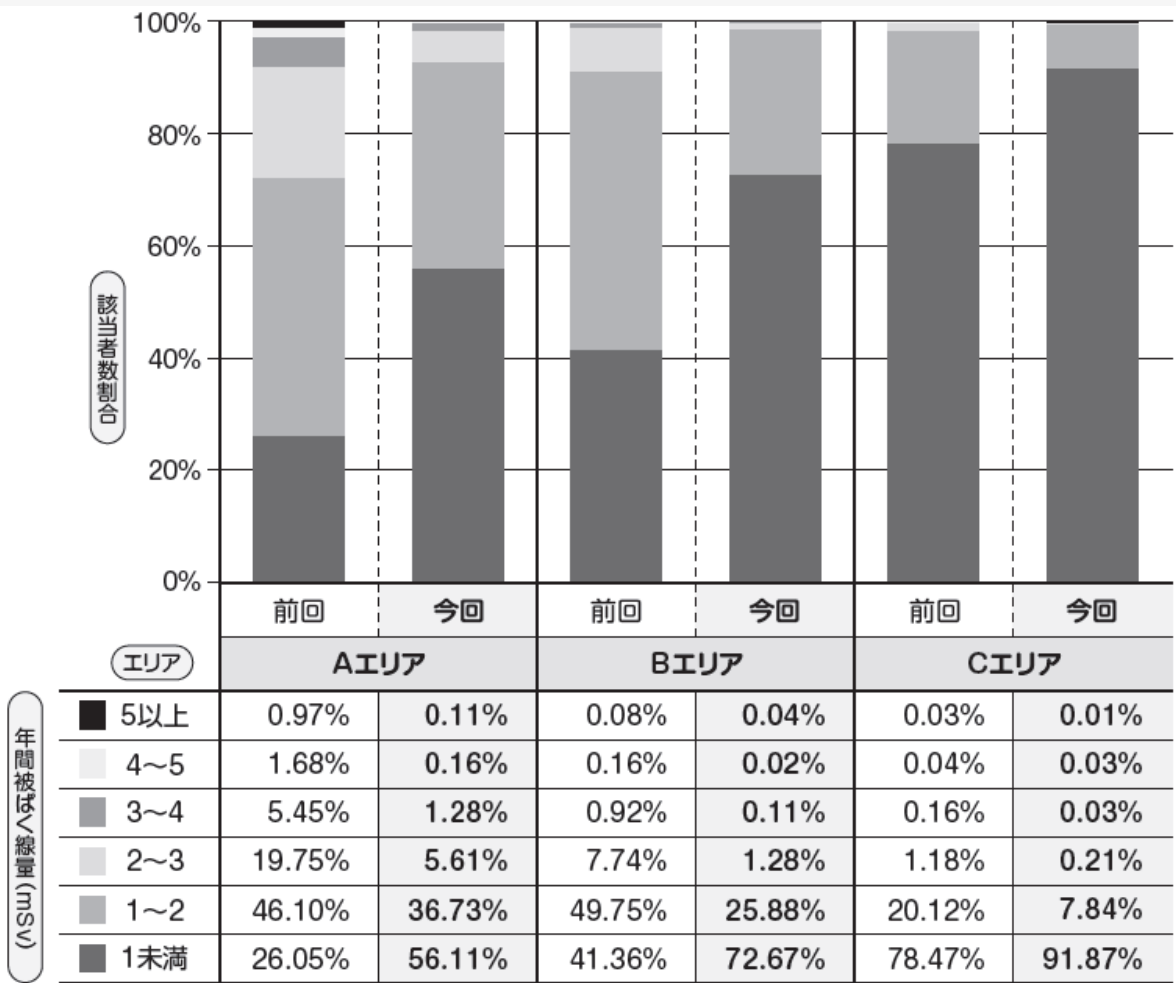
(4) 除染エリア別の人数分布の前回との比較

(前回) 平成24年7月～平成25年6月 (今回) 平成25年7月～平成26年6月

年間1mSv未満が、
Aエリア:56.11% (前回差:+30.06ポイント)
Bエリア:72.67% (前回差:+31.31ポイント)
Cエリア:91.87% (前回差:+13.40ポイント)

各エリアとも、前回と比べ、年間1mSv未満の方が増えている。

AエリアとBエリアでは、30ポイント以上の増加となった。



注:平成25年7月～平成26年6月は、Cエリアについては、希望者、モニタリングの測定となっており、測定者は減少している。

ご清聴ありがとうございました！